

構築会兵庫支部 平成17年度見学会の概要

51名が参加し盛夏の中で開催した平成17年度見学会の最初の訪問先は、10月のグラウンドオープンを間近に控えた「兵庫県立芸術文化センター」です。芸術文化センターは阪神・淡路大震災からの復興のシンボル事業であり、震災から10年を迎える今年、芸術文化の創造拠点として開設されるものです。

移動式の音響反射板により残響時間をコントロールし、コンサートだけでなくオペラやバレエにも対応できる大ホールはマホガニー材がふんだんに用いられ、ヨーロッパの名門オペラハウスを彷彿させるものでした。演劇、伝統芸能などを対象とした中ホール、室内音楽用のアリーナ形式の小ホールなどの建築物にとどまらず、佐渡裕芸術監督のもと独自の管弦楽団(平均年齢27歳、日本人24人、外国籍13カ国24人の48人編成)の結成や、山崎正和芸術顧問のもと自主企画の演劇などハード・ソフトが一体となった整備に見学者一同感心させられました。

2つ目の見学場所である「尼崎の森中央緑地」は、震災時の神戸製鋼所等の工場跡地を“尼崎21世紀の森”として再生する事業の先導プロジェクトで、平成18年秋の“のじぎく兵庫国体”の水泳競技会場にもなるスポーツ施設を見学しました。高度成長期の尼崎臨海部を知る(比較的年齢の高い)参加者からは、尼崎臨海部の変貌に驚きの声が上がりました。

真夏の見学会の後は、待ちに待った懇親会。神戸市の新長田南震災復興市街地再開発事業の一つとしてできた全国最大級の沖縄物産店「琉球ワールド」で、社会基盤工学部門長代理の奈良先生、建築工学部門長の相良先生をお招きして盛大に行われました。